ウガンダ便り
No.1

Mpola mpola

ゆっくり ゆっくり♪
2008. 7. 9.

みんなさん、元気ですか。私は、５月２１日に日本を出てもうすぐ２ヶ月になりますが、おかげさまで元気にやっています。

私のウガンダの第一印象は、緑が多いということです。アフリカというと草原を思い浮かべますが、ウガンダは「アフリカの真珠」と言われるほどアフリカの中で緑豊かな国です。

ウガンダの南側にはアフリカで１番大きな湖・ビクトリア湖があり、ジンジャから世界で１番長い川・ナイル川が始まります。スーダンでエチオピア発の青ナイル川と合流し、エジプトを通って地中海に注ぐまで約 6,400 キロ、３ヶ月を要するそうです。

地図を見てわかるように、赤道直下にあるウガンダ国ですが、ケニアと同じでほとんどの町が標高 1,200m と高い場所にあるため、過ごしやすいです。またケニアと同じように、大雨季、大乾季、小雨期、小乾季と降水量で季節が分けられるようです。ちなみに７月は大乾季になるようで、これからの生活用水が少し心配です。

ウガンダ基礎情報

【首都】カンパラ　　【人口】2,500 万人
【面積】24.1 万平方キロメートル（日本の本州とほぼ同じ）

ウガンダの小学校の学期

【１学期】２月４日～４月２５日　【２学期】５月２６日～８月８日　【３学期】９月８日～１１月２８日…ということは長期休みは、何日あるのでしょうか。

私の住む町・ブシア

私の住む町ブシアは、ウガンダの東側にあるケニアとの国境の町です。さすが国境の町で荷物を運ぶための大きなトレーラーやトラックがたくさん走っています。乾燥していると土がまい上がりほこりだらけになります。

ウガンダは海に接していない国なので、石油などケニアの港モンバサなどから運ばれてきます。そのせいか物価が少しケニアより高く感じます。そしてケニアより少し貧しい国のように感じます。海に接しているか、いないかで差があるんだな、と感じています。

ブシアの町に来てすぐに感じることは、自転車タクシーが多いことです。ウガンダではめずらしく、ブシアの自転車タクシー運転手はピンク色の制服を着ています。最初のころは、かわいくて笑っていましたが今はもう慣れてしまいました。

ブシアの町は、人や自転車でごちゃごちゃしていて、私の学校もそんな町中にあり、ケニアで住んでいたときの町とはずいぶん違います。

私が勤める小学校はおそらくウガンダで１番ケニアよりにある小学校ではないでしょうか。私立の小学校で生徒数は幼稚園～７年生の約１５０人の小さな学校です。ケニアから通ってくる生徒もいます。

海に囲まれている国の日本人にはめずらしい国境。正規の門とは別に、住んでいる人が自由に通っている場所もあり、私も２～３歩足を踏み入れてみました。この市場では、ケニアのお金とウガンダのお金の両方が使えます。ランプに使うケロシン（油）などケニアのほうが安いので、生徒に買って来てもらったりしています。

＜編集後記＞６月１７日の早川千晶さんの講演はどうでしたか。みんなと一緒に早川さんの話を聞きたかったな。ウガンダの小学校は５月２６日から２学期が始まっていて、ケニアのようにすぐに「ウガンダ便り」を書くことができずにいました。今は１週間ほど、首都のカンパラに来ていて今度はウガンダ語の勉強をしています。日本のみなさんはもうすぐ夏休みですね。小学校生活最後の夏休み、よい思い出を作ってください。ケニア便りから数えると６号目になる「ウガンダ便り第１号」を送ります。【深井佳代子】

Kayoko　FUKAI
JICA　UGANDA　OFFICE
P.O.Box.　12162
Kampala　UGANDA

＊＊＊＊＊ おまけ ＊＊＊＊＊

「ケニアで１番大変だったことは何ですか」一時帰国して小学校を訪問したときに、K 君からこんな質問を受けました。１番大変だったことねぇ…いざ考えてみるとすぐには思い浮かびませんでした。「今まで一番大きな壁は何ですか。またそれをどうやって乗り越えてきましたか」と聞かれると困っていたように、この質問にも困りました。そのとき壁に思っていても、乗り越えてしまうと（過ぎてしまうと）私そのことを忘れてしまうから(?!) です。だからウガンダでは「大変なことは何だろう」と思いながら過ごしていると…ありました！忘れないうちに書きますね！

＜6月25日＞

↑ マタツ（乗り合いタクシー）

ウガンダへ来て１ヶ月、私の部屋がもうすぐ完成する。新しい部屋に備えて、余ったシーツでカーテンを手縫いして作った。ランプもある(電気無し)、タンクも買った（水道は学校の敷地内にあり１０ℓタンク２つに水を貯めて運ぶ)。さて料理は、炭を使おうかな、プロパンガスを使おうかな…。結局、準備に時間のかかる炭はやめ、プロパンガスに決めた。さっそくプロパンガスをどこで購入できるか聞いてみると、私の町ブシアでは手に入らないことがわかった。北へ２２キロ離れたトロロという町まで購入しに行くことになった。「**初めての町**、ちょっと不安だな。誰かついてきてくれないかな…。いや、でもぜいたくなことをしようとしているんだから仕方がない。私一人で行くしかない」

↑ ボダボダ(バイクタクシー)

朝９時２０分ごろ、家ができるまで泊めてもらっている同じ町の隊員の家を出て、マタツ乗り場へ。マタツとは乗り合いタクシーのことで、そのほとんどがトヨタ産の中古車ハイエース、１４名乗り。このマタツは人数がそろうまで出発しない。**待つこと2時間**。やっと人数がそろい出発。すでに１１時３０分をすぎている。

そこから約１時間かけてトロロの町へ。**途中車の調子が悪く**なって、運転手が上着を脱ぎ、車の下にもぐりこむ。「途中で下ろされたらどうしよう」と不安になった。

１２時３０分、トロロの町に無事到着。マタツ乗り場すぐ横のガソリンスタンド Shell へ。プロパンガスのタンクが目に入った。やっと買える！と思いきや、今タンクの**ガスは空っぽ**だと言う。「最悪だ…」でも、親切な定員が他の店を紹介してくれた。ついでにボダボダ（バイクタクシー）も呼んでくれ、値段の相場も教えてくれた。おかげで代金をボラれなくてすんだ。

↑ 自転車タクシー

となりの Shell スタンドへ**初めてのボダボダ乗車、4キロもどる**。でもそこでは**ガスの販売さえしていなかった！**「えーっ！姉ちゃん、ここに売ってるって言ったじゃーん！」ガスタンクの購入をあきらめようかと一瞬頭をよぎったが、いや、でも料理をするのに時間をかけたくない。再度どこで手に入るか店員にたずねると、**また町へもどって**他の会社のガソリンスタンドへ行けと言う。

ボダボダ乗り場へ行くと、今度は**自分で値段の交渉**をしなければならない。来たとき値段を参考に往復の値段を交渉するが、なかなか納得できる値段にならない。交渉しているうちに、すっかり疲れてしまった私。市場などで値段の交渉を楽しむ人もいるけど、私はそれが苦手。もう涙が出そうになって**その場に思わず座り込む**…。「あぁ、もう疲れたぁ。また交渉しなきゃいけないのぉ…。どうせ外国人だからって高い値段を言ってるんでしょう…」

とにかく人が集まってきて私を囲み何か言ってくるけど、とても疲れていた私。「あぁ、もう疲れたの。ちょっと待って」と日本語で言い返し、とにかく気持ちを落ち着かせた。「私こんなところで何やってるんだろう…1,000 シル（70 円）くらい多く払ったっていいんじゃない？！…いや、でも現地の人にとっては 1,000 円くらいの価値はあるはず？！そう簡単には渡せない…ああ、なんて心がせまい私なんだ、70 円くらい…いやでもウガンダでガスを使うというぜいたくなことをしようとしているんだから苦労するのはしようがない…」**何度も何度も考えた**。そして、落ち着いたところで再度交渉。その様子を見ていたせいか、納得できる値段になっていた。

再度町へ行き、無事ガスタンクを購入。同じ運転手のボダボダに乗ってマタツ乗り場へ向かっていると、大きなバスが横切った。どうやら私の町ブシアへ行くバスらしい。ボダボダの運転手がバスを止めてくれ、**また値段の交渉**が始まった。でも今度は値段の相場がわかっているので「ガスタンクを持っているんだから 5,000 シルだ」と言われても、「いや私はマタツの値段を知っている。2,500 シルでマタツに乗れるんだから、2,500 シルしか払わない」「4,000 シルでどうだ」「それなら乗らない」「2,500 シルでいい」交渉成立。

バスに乗るとすぐに隣の座席のおばさんに値段を聞いてみた。すると 2,000 シルだということがわかった。「ボラれたか…でもタンクがあったからしようがないか」と自分を納得させていると、料金を集める人は私たちの交渉を知らなかったようで正規料金の 2,000 シルでチケットを切ってくれた。よかったぁ、ボラれずにすんだ。

まだ学校には着かない。ブシアの町に着くと、今度は学校までガスタンクを運ぶために、自転車タクシーの兄ちゃんと**また値段の交渉**が始まる。マタツ乗り場から学校までは 200 シル。タンク用と私用で２台、なんとか無事 400 シルでお願いすることができた。

無事、学校に着いたのは４時をまわっていた。初めての町で、交渉に疲れ、昼ごはんも食べずに…とにかくすごく疲れた一日だった。

でもたった１日の間にマタツ、ボダボダ、バス、自転車タクシーと４つの乗り物に乗れたし、トロロという新しい町も見られたし、そう考えると、大変なことがたくさんあった一日だったけどよい日だったのかなと後で思った…そう思うようにした。それが私！